

WEB面接、採用担当は万全か

言の葉OFFICEかのん代表 **川邊 暁美**

◆オンライン、企業側の対策は

「面接官の表情がわかりづらく、伝わっているか不安だった」「質問が聞き取れなかったが、失礼と
思い、聞き返せなかった」…。学生にWEB面接で不安に思ったことを尋ねると、このような声が返っ
てくる。

学生には、オンラインの特性を踏まえた面接での伝わる声と話し方、表情や姿勢について指導をし
ているが、向き合う採用担当者のオンライン対策は万全なのだろうか。

企業の採用担当者にとって、WEB説明会やWEB面接で、自社の魅力をアピールし、良い人材を
見極め、獲得することは、厳しい状況下で自社が生き残るためにも気を抜けない真剣勝負の場であ
ると思う。

◆熱意と魅力が伝われば

WEB面接は、応募者から「会社の雰囲気分かりにくい」という声もあるが、これは企業側にとっ
てはメリットとも言える。比較的、小規模な企業であっても社屋の規模や設備などに応募者側の判断
が左右されず、企業の第一印象の窓口となる採用担当者の熱意やそこで語られる企業の魅力がしっ
かり伝われば、心を動かすことができるからだ。

しかも、リアルな場でのプレゼン力の差より、オンラインでのプレゼン力の差の方がずっと縮めやす
い。例えば通常の会社説明会では、プレゼンの内容だけでなく、話し手の視線や表情、服装、立ち居
振る舞い、声の力強さ、テンポなども伝わり方に少なからず影響するが、WEB説明会では姿が見え
る範囲がバストショット(胸から上の撮影)からウエストショット(腰から上の撮影)程度に限られる。こ
の範囲の身だしなみ(襟元のしわ、ネクタイのゆがみは特に目に入るので注意)と表情、姿勢に気を
配ればよい。また、声の力強さで相手を引きつけることより、伝えたいキーワードが相手の印象に残
るように声の表情を工夫する方が効果的だ。

◆WEBでの明確な伝え方

WEB会社説明会や面接での伝わる話し方とは、まず、伝わり方にタイムラグ、ニュアンスのズレ
があることを前提に、明確な伝え方を心掛けることだ。

話す速さは通常よりも少しゆっくり、普段よりやや口を大きめに開け、滑舌を意識して、丁寧
に話すが良い。また、音として紛らわしい言葉(「試作」と「秘策」など聞き間違えやすい言葉)は使
わず、別の言葉に言い換えて誤解を避ける。できるだけ一文(主語から述語まで)は短く、40文字程
度に収め、語尾「です、ます」まできちんと言い終えるように話すことで信頼感が演出できる。

そして、重要な言葉、会社の理念や数字などは、強い声で話すのではなく、他の言葉よりもゆっ
くりと抑揚をつけ、間を取って話すことで、強く印象に残る。そう、あたかもその言葉に声でアン
ダーラインを引くようなつもりで。

また、面接で質問する際は、「では、次に学生時代に打ち込んだことについて聞かせてください。あ
なたが、学生時代に打ち込んだことは何ですか」と2段階で質問を投げかけることで、答えるタイ
ミングを相手にわかりやすく示す配慮を。話を聴くときは表情を見ることも重要だが、後で録画を
見ることもできるので、WEBカメラから大きく目をそらすことなく、うなずきや表情、ジェスチャー
などは普段よりも大きくし、真剣に聴いているという誠意を示すことで、相手の本質を引き出す
ことができる。採用担当者も「見られている」「評価されている」ことを忘れずに対策を。
(かわべ・あけみ)